

今年度の特記事項

- 年度はじめより、発症させないを第一にコロナ対策を徹底した中、1月に通所利用者1名（家庭内感染）および職員1名（経路不明）の陽性者がでたが、速やかな感染対策により拡大せず、いずれも単発です。通所および短期入所事業を一時休止や利用制限をしたが、数日の休止でも心身に影響のする利用者が多く、我々の事業の重要性を再認識した。
国や東京都の支援のもと、新型コロナウイルス感染症対策の補助金を活用し、PCR検査の実施・陰圧ルームの設置（府中市による）(3階の4部屋)・間仕切りパネルの設置等対応し予防に努めた
- 空調工事が1年延び、不調の多い冷暖房機器が懸念されたが、冷風扇等を活用し暑い夏を乗り切った
- 館内LED化は、今年度で全館を完了した
- コロナ禍の事業・行事等縮小の影響もあるが、ICT化による業務効率もあり、超過勤務が実額で▲6,300千円減額できた

1 利用者満足の獲得

- コロナ禍の中、行事等は集合単位を「少」にし、「利用者の個」を充実し実施した
- サービス向上に向け必要最小限の人数を意識し、職位別の意見交換会を3回開催した
チームリーダー層9名10月19日 主任層8名11月17日 係長層6名12月8日
- コロナ禍にあり、家族懇談会の開催やご家族との連携はできなかった 次年度はご意見、提案等を頂く手法を考えたい
- 新型コロナウイルス感染症対策を第一にリスク管理の徹底を図った(3密回避・マスクの徹底・館内換気および消毒(10時・14時)等)
- 「快便」メンバーシップのテナマイスター制度によるスキルアップを計った

2 地域支援の定着 地域における高齢者支援拠点の役割を担う

- 家族支援の視点から府中社協などと連携して地域社会資源を探ったが、コロナ禍の影響もあり進捗少なかった。
- 困難事例の対応や定期的な意見交換についてはコロナの影響無関係に地域・行政・医療・介護事業所連携強化を図った
- 食事サービスの拡充(通所介護夕食持ち帰りサービスの定着)年間で3,942食を提供することができた。
- 地域・家族との連携強化(特養利用者との行事連携)は、新型コロナウイルス感染予防により未実施
8月:納涼祭 12月:餅つき 3月:災害対策・桜見(新型コロナウイルス感染予防のため中止)
- 町会等との更なる連携及びお祭りや防災訓練等双方の行事については、新型コロナウイルス感染症により未実施

3 職員力・組織力の強化

- 昨年導入した新システム(ケアカルテ)をベースにナースコール・コールマット・眠りスキャン等の他機器との連動により、利用者サービスの向上に努めるとともに職員の業務効率の向上を目指した
結果、超過勤務は前年比66%削減できた(服やっくんの導入は次年度に持ち越された)
- 職種別の専門職務要件が完成し、年間評価 ⇒ 新年度チャレンジプランのサイクルが完成した
- 新システムをベースに機器(iPad/iPhono)を各部署に準備することで、情報の共有がスムーズとなり組織力が高まった
- 感染症対策を機に、リモート環境が充実したことで、研修の参加はスムーズにできスキル向上につながった
- リスク管理の整備ー各種マニュアルとの見直し ⇒ 新型コロナウイルス対策を事例にして確認した
- 法人連動での働きやすい職場づくり ⇒ 決まった制度は速やかに伝達し、全職員ノートパソコン共有に努めた
- 離職者ゼロを目標とする ⇒ 正職員2名退職(食事・看護)理由は自己都合による転職希望と配偶者の転勤

4 安定した経営基盤の確立

- コロナ禍の影響もあり、通所・短期入所は苦戦したが、特養・認知通所は健闘した
特養:95.4%(目標96%) 短期:83.6%(100%) 通所:70.2%(85%) 認知症対応型通所:84.1%(85%)
- 毎月の経営会議(第4月曜)で事業別利用実績・超過勤務実績・水光熱費を月次毎で確認し、意識の共有を図った
- 各種加算の取得 ⇒ 特養の栄養マネジメント加算(14単位/1日)を10月より取得した
- 適正配置への取り組みは、介護員の常勤化を目指したが、採用難の中進まなかった
- 新システム導入を契機としたレスペーパーへの取り組みにより、利用者ケースファイリングはスリム化した
- 朝夕礼は施設内ZOOMで実施し、情報共有を徹底した。

5 施設整備と環境整備

- 介護保険制度改正に伴い、府中市介護サービス事業所連絡協議会が設立され水害対策について動き出した。
感染症、災害等の取り組みについて、課題は多く残されているが、引き続き検討、協議が必要になる。
- LED化は1階フロアおよび地下フロアを実施し、館内すべてを完了した
- 次年度の空調設備の更新後、ご家族と憩いのスペース設置にむけて検討、協議に向けて準備とする。
- 昨年に引き続き新型コロナウイルス感染予防の取組 3密回避、特養:家族の面会について最新情報を基に最善の対応を協議実施した。